

寝る前の約束

@onaishigeo

第一夜

寝る前のおまじない

大丈夫。痛くしないよ苦しくないよー。

「変なおまじない」

夢でいつも誰かを殺すの、私。

だから申し訳ないから、

せめて苦しまないで死なせてあげようと思って。

「...なんか寝るの怖くなって来た」

平気よ。夢の中だから。

「いや俺、人の夢に入り込む癖があるんだ...なんで目を輝かせるの？」

第二夜

眠る前のおまじない

怖い話して。

本当にあった、とびきり怖い話。

「それ絶対逆効果！俺が眠れなくなっちゃうじゃないか」

いいの、それで。

私は寝るからあなたは一晩中、お化け出ないか見張ってくれるし。

「それ...ずるいよ」

あれ？

そういうのが「無償の愛」なんじゃなくて？

第三夜

寝る前のおまじない

私はママじゃない私はママじゃない。

「それ忘れるとどうなるの」

朝起きるとママになっちゃう。

私の自我同一性確立しのためには、
どうしてもこのおまじないが必要なんだ。

「なんか大変だね」

みんなはどうしてるんだろう、
やっぱり、おまじないしてるのかな。

「たぶん...してないと思うよ」

第四夜

寝る前のおまじないして、
でも、あまりきつのは、いや。

「...どうして、体縛るわけ？」

いいの？

寝てる間に私が連れ去られても。

「俺が退治してやるよ」

ふーん、

それが私のママでも？

「え！」

ママはたまに私と同一化したくてさらいに来るの。

自分が産んだんだから当然なんだってさ。

あ、血迷ったママ、結構強いからよろしくね。

第五夜

寝る前のおまじない

ね、首をぎゅっと絞めて、
気を失うくらいに。

「そんなの無理だよ」

意気地なし。

「出来るわけないじゃん、おかしいよ絶対」

ふーん、

お兄ちゃんは上手だったのになー。

あ、ホントはいないんだけどね。

第六夜

寝る前のおまじない

「どうして薬をわざわざ砕くの？」

その方が苦いから。

「苦くない方がいいじゃん！」

ううん、
こんな薬を飲まないと生きていられない自分に分からせてあげたいの。
この苦さがお前の命なんだってね。

「僕なら逆に甘くする」

いいね、
私もそういう風に生きたかった。

第七夜

寝る前のおまじない

ガシャン！

「何でガラス瓶を床に投げつけるわけ」

はい、もう電気消したから明日の朝までベッドから出られないよ。

「いや別に逃げないし！」

ごめんね、こうしないと眠れなくて...

でも、あなたが一回でもため息ついたら私がこの床に飛び込むかも。

...分かった？

第八夜

寝る前のおまじない

ごそごそ

「ええ！裸で寝るの？」

そう、この方が良く眠れるから。

「...じゃあ俺も」

いいの君は着たままで。

「？」

私は裸だけど君は着て寝る。

絶対触らないで。

触ったら絶交！

「意味がわからない」

意味なんかないの。

ただここに過酷な定めがある、

その事実には私は安堵する。